

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

⑧1

山登りの季節がやってくると、妻を誘い初めて五葉山登山をしたときのことを思い出します。

平成十八年に念願のカメラを手に入れたのを機に今までパシャパシャ撮っていたのをじっくりと自然や風景と向き合い、ツツジやシャクナゲ、原生林をシャッターに収めてみたいと思ったのが五葉山登山のきっかけでした。

五葉山の山開きの日だったでしょう。登山帰りの方々は私の店で食事をしながら、登山のことや頂上部の眺めなどを楽しそうに話をしているのです。その方々は本格的な登山靴を履いていました。私は、子どもの頃に今山や水上山に短靴とか長靴を履いての登山しか知らず、さっそく妻と

二人分の登山靴を買い、登山に備えました。

平成十九年春、いよいよ五葉山初登山の日がやってきました。子どもが遠足に行く前の日のように私も天候を気にしながらも、ワクワクしていました。ツツジ観賞会の日には晴れ上がり、絶好の登山日和です。

真新しい登山靴に重いカメラ機材を背負ってのいでたち。五月の強い日差しが照りつけ、歩き始めてすぐに汗が吹き出てきます。豊石に着いたときにはのどがカラカラで、休憩しながら水分補給。新緑の木々に包まれ、すがすがしい空気が私たちを包み込んでくれました。

気持ち奮い立たせ、険しい道をシャクナゲ山荘目指して登ります。七

合目、体中から汗が滝のように流れます。ツツジの背丈が低くなり、淡い色の花が高山であることを見せてくれます。八合目、高さのせいでしょうか、ひんやりし、汗が嘘のように引いていきました。

やっとシャクナゲ山荘にたどり着くと、大勢の

南、あらゆる方向に視線を向け、円を何度も描くように飽きることなく、頂からの眺めに浸っていました。

日枝神社近くで昼食後、記念写真。妻はすっかり疲れてしまったので、原生林の中にある日の出岩には行きたがりません。一人で日の

出岩に向かいます。日の出岩近くで大勢の人たちが賑やかに昼食です。そこを通り過ぎやがて稜線に出ました。そこは釜石側でした。唐丹の海と街が見えます。絵のような漁村の風景です。

ひとつは、赤坂峠付近までのツツジで、伸びやかな枝振りで濃い色花を付けています。二つ目は、赤坂峠から五、六合目あたりまでのツツジです。寒さと風雪に耐え懸命に生きている姿に感銘します。厳しい自然条件の下で育まれた見事な枝振りに淡い花が咲き誇っています。三つ目は、頂上部のツツジです。背丈は人の膝ほどしかありません。雪や風がそれ以上の成長

を拒んでいるのです。厳しい冬をくぐり抜けしっかりと生きています。新沼信夫氏が日頃市中学校時代に毎年キャンプをしたが、五葉山登山をしたことを話してくれましたが、学校行事として登山すること、キャンプを行うことの意味、大切さが今回の登山でわかりかけてきました。これまではカメラに景色を収めることを主眼においてきましたが、自然の中にとっぷり浸かり、抱かれることによって自然の魅力を体で感じることができ

妻との五葉山登山

大船渡市立根町 千葉悦郎

登山者が水飲み場で水を飲んだり、広場で食事をしたりしていました。高い山の上とは思えない賑やかさに気持ちがほぐれ、ゆったりとした気持ちになりました。



平成19年春のツツジ観賞会で五葉山に初登山。五葉山山頂で妻と(右が筆者)

でした。帰りを待っていた妻と五葉山神社、山椒魚が棲むという小さな流れの沢、シャクナゲの群落があるお花畑をめぐりシャクナゲ山荘に着くと、登山者たちが帰り支度をしています。私たちは帰り道を転がるように下っていき、豊石にはあっという間に着いたような気がします。この登山であらためて感じたことは、山ツツジの楽しさです。

【執筆者プロフィール】一九四一年生まれ。大船渡市立根町在住。山や川、海など自然をモチーフにした写真を撮り続ける。千秋庵庵主。